

ほしな  
保科

みつひろ  
充弘氏



プロフィール

84年(昭59)慶大経卒、同年三菱銀行(現三菱東京UFJ銀行)入行。99年退職、同年ジャストミート経営設立、00年ネットパリュン設立。東京都出身、46歳。

三菱銀行(現三菱東京UFJ銀行)在籍時に、企業の合併・買収(M&A)案件を数多く手掛けています。

「今はM&Aに関してアドバイスする仕事に専門職となっているが、当時は黎明期で前例が

# 著者 登場

少なかった。ただ多くの経営者と接する中で社会的な必要性とともに、自分にとってM&Aに携わることが天職と感じた。同時に企業に勤めながらでは制約がある。小回りを利かせながら、顧客の利益を最大にするため、独立を決めた」

「現在の肩書きの「リスクプロテクター」という仕事とは、

「オーナー企業の事業承継や事業再生、不動産について、『守りながら攻める』という問題解決のお手伝いをしていく。

## フライを落とした野手は なぜ空を見上げるのか？

(幻冬舎ルネッサンス刊、03・5411・6710)

### 失敗責めず やる気引き出せ

「週末に少年野球の監督をしている。小学校低学年の子供たちは、守りの時に簡単なフライを落とすとがっかりして下を向く。一方、大人の野球では簡単なフライを落とした場合、空を見上げる。失敗した際に空を見上げるのは、ほとんどの場合、言い訳を探しているか、フライの高い選手の照れ隠しにすぎない。言い訳で自分の立場やプライドを守っても、会社を守ることはできない。どうしたら前進できるか、前向きに考えることが重要だ」

「守りと攻めの重要性、そして難しさを説いています。

「成果主義の時代、失敗を意識させる経営や懲罰制度が増えている。JR福知山線の脱線事故で、車両が脱線した際に事故車両に乗り合わせていたにもかかわらず、遅刻しないように自分の職場に急いだ運転士の例をみても、失敗を厳しく処罰する方法は逆に失敗を強く意識させ、逆効果だ。従業員の心に響き、やる気がでるような取り組みが必要だ」 (山下裕子)